

事務事業名	自然環境講座				担当	産業環境部 環境課 環境計画係			
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり				電話番号	0285-83-8241		
施策名	04	自然環境の保全と保護				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成20 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	4. 環境衛生費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	身近な自然について正しく理解し、環境を大切にすることを育むとともに環境問題の解決に自ら行動する意欲と能力を培い、将来にわたり自然環境の保護に当たる人材の育成を図ることを目的に平成20年度から始めた。 鬼怒水辺観察緑地、自然ふれあい園「大久保」、井頭公園などに生息する植物や昆虫、鳥を対象に生態観察等のフィールドワークを中心とした学習をしている。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 ・ 講座を年6回開催 ・ 受講者の募集（登録者数：22人）  25年度計画 ・ 動植物実態調査事業に合せて講座を開催する。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称						
	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
	ア	講座回数	6	5	6		
	イ	受講者数	延べ82	延べ51	延べ62		
ウ							
エ							
オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称						
	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
	ア	受講者数	延べ82	延べ51	延べ62		
	イ						
ウ							
エ							
オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市内の自然を正しく理解し、環境問題の解決に自ら行動する意欲と能力のある人材を育成する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称						
	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
	ア	自然環境保護の指導者になった数	0	0	0		
	イ						
ウ							
エ							
オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 豊かな自然環境の保護	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称						
	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
	ア	緑などの自然環境が良いと思う市民の割合	87.7	92.6	86.2		
	イ	自然環境保全活動に参加した市民の割合	3.2	5.7	4.8		
ウ							
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	58	49	70	0	0
		事業費計(A)	千円	58	49	70	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	0	0
		延べ業務時間	時間	392	294	294	0	0
		人件費計(B)	千円	1,590	1,255	1,247	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,648	1,304	1,317	0	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	将来にわたり自然環境保護に当たる人材育成をめざし、平成20年度から開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	自然保護の活動ができる後継者が不足している。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	受講者からの意見（年度事業終了後の話し合いから） ・ 楽しく市内の自然について学ぶことができ、環境への関心が高まった。 ・ 四季折々の自然のなかで行われる講座は、いずれもおもしろい。 講師からの意見 ・ 継続して講座を行うことで、人材の育成につながる。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 環境保護のための人材を育成することは、豊かな自然環境を守り育てることにつながることから結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 自然環境の保護にあたる人材の育成を図ることは、公共の仕事であることから妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 環境問題の解決に自ら行動する意欲と能力のある市民を育てることになることから適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 人材の育成には時間を要することから向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・将来的に人材の不足になる。 ・市民の手による自然環境保護活動が減少する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の経費であり、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の人件費であり、削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 受益者負担に当たらないものであり、公平、公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							